
スイートプリキュア 闇に蠢く次元の悪

S・H

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スイートプリキュア 闇に蠢く次元の悪

【Nコード】

N9887Y

【作者名】

S・H

【あらすじ】

キュアミューズが仲間になり、メフィストも正気に戻り、いつもと変わりなく生活している響達。しかし、そんな彼女達の前にラビリンスのウエスターとサウラーが現れ、その直後マイナーランドでもない謎の敵が現れる。同時刻、その謎の敵はハートキャッチ組、フレッシュ組にも現れた。そして、彼女たちはこの後とてつもない戦いに巻き込まれることになる。

主な登場人物（前書き）

主な登場人物・オリジナルキャラクターです。

主な登場人物

スイートプリキュア

北条 響 (キュアメロディ)

南野 奏 (キュアリズム)

黒川エレン (キュアビート)

調辺アコ (キュアミューズ)

ハミィ

フェアリートーン

クレッシエンドトーン

調辺音吉

メフィスト

ハートキャッチプリキュア

花咲つぼみ (キュアブロッサム)

来海えりか (キュアマリン)

明堂院いつき (キュアサンシャイン)

月影ゆり (キュアムーンライト)

シフレ

コフレ

ポプリ

花咲薫子 (キュアフラワー)

コッペ

フレッシュプリキュア

桃園ラブ (キュアピーチ)

蒼乃美希 (キュアベリー)

山吹祈里 (キュアパイン)

東せつな (キュアパッション)

タルト

シフォン

ウエスター (西 隼人)

サウラー (南 瞬)

オリジナルキャラ (敵)

ギア イメージCV 柴田秀勝

本編の黒幕であり、次元の狭間にて空間のねじれによって生まれた悪。大魔神のような姿で性格は冷酷非情。

全ての世界を破壊するべく3人の部下を自身の力で生み出し、破壊活動を行わせている。

リーグ CV 池田秀一

ギアが生み出した部下の一人。貴公子風の青年の姿で常に冷静だが、絆や信じあう心を嫌悪している性格でそれを破壊することを生きがいとしている。空間の剣（剣）を武器として所持しており、それを利用した空間による剣術を使う。また、瞬間移動も扱える。一人称は「私」か「我」

ハンク CV 星野充昭

ギアが生み出した部下の一人。初老の姿をした怪力な体格で、主に攻撃は拳を使い、攻撃力もかなり高い。かなり好戦的で粗野な面もあるが、仲間想いなところもある。一人称は「わし」

カルマ CV 下和田裕貴

ギアが生み出した部下の一人。少年のように無邪気だが、かなり狂気じみた性格かつ激情家で特に顔に傷つけられると激昂する。そんな性格でもハンクと同じく仲間想いな性格。一人称「僕」、激昂した時は「俺」

闇の怪物 CV 声無し

リーグ、ハンク、カルマによって作り出される怪物。人の姿をしている。

実力はなかなか手強い。また複数いる場合、合体も可能で更に力を増すこともできる。

他にも主人の体内に取り込まれることにより主人の力を一時だけパワーアップさせることも可能。

主な登場人物（後書き）

初めまして。私は小説を書くのは始めてで素人です。

以後、よろしくお願いします。

また、この話はスイートがメインですがハートキャッチとフレッシュをコラボさせた話です。スイートが終了する前までには完結させる予定です。

プロローグ

次元の狭間にて恐ろしい悪が生まれてしまった。

その名は・・・ギアア！

ギアア 「我が名はギアア。

我が部下達よ、多数存在する世界を荒らし破壊するのだ。」

3人 「はっ！！！」

ギアア 「さあ、行け（ゆけ）！！！」

3人の部下に命令を下す。

彼らが行き着いた世界はプリキュアが住んでいる世界だった。

リーグ 「お前達、どうしてついてきた？」

カルマ 「ひひひ、どうでもいいじゃあないか。」

ハンク 「そうだ！むしろはギアア様に生み出された仲間だろう？」

リーグ 「ふん、仲間だの絆だのくだらぬ。

私はそういった物は大嫌いなのだ。お前たちと私が仲間だとは認めぬ。

二度と私の前でその様な事を口にしないでくれ！！！」

ハンク 「何だと！」

仲間である事を否定されて怒るハンク。

リーグ「では、私はこの世界を破壊して回る。

貴様達はせいぜい、ちやちな絆で遊んでいるのだな。」

ハンク 「待ちやがれ！！リーグ！」

カルマとハンクに罵言を言い去っていくリーグを止めようとする

ハンク。

カルマ「じゃあ、僕も単独で行って来るね」

カルマも一人で行こうとする。

ハンク「カルマ！お前もかよ？」

カルマ「だつてさ、こんな世界僕一人でも捻り潰せちゃいそうだから、

じゃあね！」

自信满满そうな態度でカルマも後にした。

ハンク「どいつもこいつもふざけやがって！

まあいい。わしも一人で行く。」

3人の部下はバラバラになって行くのでした。

この後、3組のプリキュアと戦う事になるとも知らずに。

スイート VS リーグ その1

ここは加音町、響達は調べの館で調辺アコことキュアミューズが新しく仲間となった事を祝って歓迎会をしていた。

響「さあ、始めましょう。」

アコ「ちよっと、別にいいわよ！

こんな事しなくて。」

赤面しながら遠慮したがっているアコ

奏「いいのよ、遠慮しないの」

エレン「そうです、姫様！

私たちはあなたが仲間になった歓迎のためですから。」

アコ「だから姫様はもうやめて、エレン。

普通に名前で呼んでいいから」

エレン「悪かったわ、アコ。」

ハミィ「とにかく始めようニヤ」

ドドリー「そうだドド。アコは恥ずかしがってるけど

本当は始めてほしいんだドド！」

アコ「ドドリー！」

何私の心を読み取ってるのよー!!」

ドドリーに本心を読み取られて恥ずかしがっているアコ。

全員「はははははは」

全員に笑われる

響「じゃあ、早く始めようよ。奏のカップケーキも食べたいし。」

奏「そうね、アコが仲間になった歓迎を祝して〜」

全員「かんぱ……」

全員が乾杯をしようとしたところに突然光が現れ二人の男が現れる。

瞬「ここはどこだ？」

別の場所に来たんじゃないか隼人？」

隼人「多分な。」

転送ミスだろう。」

アコ「ちよつと何よあんた達？」

勝手に入ってきて、人の歓迎会を邪魔しないでよ！」

急に現れた二人に怒る。

瞬「すまない。」

だけど教えてくれないか？君たちは？ここはどこなんだ？」

奏「まずはそつちから名乗るのが常識でしょ？」

瞬「そうだね。僕は瞬」

隼人「俺は隼人だ」

響たちに自己紹介をする瞬と隼人

響「私は響」

奏「奏です」

エレン「エレンです」

アコ「アコよ」

ハミィ「そしてハミィはハミ

ニヤツ！？」

みんなが自己紹介をしたためハミィも自己紹介しようとしたがエレンに口をおさえられる。

隼人「その猫、今喋らなかつたか？」

エレン「いや、気のせいですよ。はは」

響「そんなことより、何の用でここに来たんですか？」

二人にここへ来た理由を聞こうとする。

瞬「ああ、それが・・・」

効果音「ドツカーン」

奏「何、今の音は？」

エレン「もしかして」

響「ネガトーン！」

アコ「行くわよ、みんな！！」

全員調べの館から外へ出て行く。

隼人「どうしたんだ、あいつら？」

瞬「彼女達、もしかしたら・・・」

隼人「ん？」

響達は外に出てみると、人の姿をした闇の怪物4体が町で暴れていた。人々は逃げ回っていた。

響「あれってネガトーンなの？」

エレン「いいえ、あれはネガトーンはじゃない。

ネガトーンは悪に染まった音符によって作り出される怪物で人々を悲しみにさせるはず。それに、トリオ・ザ・マイナーの姿も見えないし。」

奏「じゃあ、あの怪物はなんなの？」

？「教えてやろう」

全員「誰！？」

現れたのは剣つるぎを持った貴公子のような青年だった。

リーグ「我が名はリーグ。我の生みの親であるギア様により生み出された忠実なる部下だ。」

響「ギア？」

もしかして、あの怪物を生み出したのもあなたなのね？」

リーグ「そうだ、あれは我が作り出した手駒なのだよ。」

奏「どうして町を人々を襲ったりするの？」
リーグ「どうして？」

簡単なこと、それは我が生みの親ギア様の命令だ。

ギア様はこの世界を含めすべての世界を破壊しようとは画策しておられるのだよ。」

自身たちのしていることの目的を洗いざらい話してしまう。

エレン「何ですって!?!」

アコ「世界を全て破壊？」

リーグ「安心しろ、お前達はここで消してやる。

やれ!！」

闇の怪物が響達に襲い掛かるうとする。

響「許せない!」

リーグ「何!?!」

響の言葉に反応するリーグ

エレン「そんな理由で」

奏「人々を苦しめたり」

アコ「世界を滅ぼそうだなんて」

4人「絶対に許さない!！」

4人「レッツプレイ!プリキュア・モジュレーション!」

キュアメロディ「爪弾くは荒ぶる調べ!キュアメロディ!」

キュアリズム「爪弾くはたおやかな調べ!キュアリズム!」

キュアビート「爪弾くは魂の調べ!キュアビート!」

キュアミューズ「爪弾くは女神の調べ!キュアミューズ!」

全員「届け、4人の組曲! スイートプリキュア!」

4人がプリキュアに変身するところをみていた瞬と隼人
瞬「まさか、彼女たちがプリキュアだったのか」
隼人「知ってはいたんだがまさかあいつら以外にもプリキュアがい
るとは」

リーグ「プリキュア？お前たちがか？」

プリキュアに対して頭を傾げながらメロディ達に問う

メロディ「そうよ、私たちは伝説の戦士プリキュア！」

リズム「もう、あなたの好きにはさせない！」

リーグ「ふん、小賢しい。」

行け！！」

4体の闇の怪物をプリキュア達に解き放つ。

メロディ「行くよ！」

リズム・ビート・ミューズ「ええ！」

プリキュアたちはそれぞれ闇の怪物と激突する

4人「はああああ！！」

リーグ「ふっ、なかなかパワーはあるようだな。

だが、私の作り出した手駒は結構強いぞ。

貴様達に勝てるのかな？」

ビート「確かにこいつ強い」

リズム「でも負けるわけにはいかない」

ミューズ「この世界を守るまでは

絶対に！」

メロディ「そうだよ、私たちはプリキュア。

ここで決めなきや女がすたる！」

全員猛攻で闇の怪物たちを圧倒する。

リーグ「何！？」

メロディ「はっ！」

リズム「はあ！」

ビート「とう！」

ミュージズ「てりゃー！」

それぞれの重い一撃で闇の怪物を一箇所に追いやる。

リーグ「くそっ！」

もうよい、手駒ども！この上は私がやる。」

メロディ「どうやらあいつの出番ね。」

そんな時、リーグは闇の怪物たちを自身の体に引き寄せ体内に取り込んだのだ。

リーグ「ぬおおおおお！！！！」

闇のオーラが飛び散りながらリーグの体は少し巨大化した

リーグ「行くぞ！」

4人「うん！！」

次回に続く！

スイート VS リーグ その2

加音町に突如現れたリーグと名乗る謎の敵。

リーグは自身が生み出した闇の怪物を取り込んでパワーアップしてプリキュアと激突しようとしている。

リーグ「さあ、行くぞ！」

メロディ・リズム「はああ!!」

メロディとリズムは息の合ったパンチの連発をかましながらもそれを素早い剣のこなしで受け止めるリーグ。

リーグ「ふん！」

リーグは剣を振りかざして斬撃を飛ばしその斬撃がメロディとリズムを命中

メロディ「いや！」

リズム「きゃっ！」

二人は弾き飛ばされた

ビート「よくもやったわね!!」

リーグ「飛んで火にいる夏の虫とは貴様のことだ。」

リーグはさっきの斬撃をビートの向けて飛ばす

ビート「ラブギターロード！」

ビートバリア!!

リーグの斬撃を防ぐ

リーグ「何!？」

ビート「ビートソニック!!」

リーグ「私も負けぬ！」

はああああ!!

先程の斬撃を複数に飛ばし、ビートの光の矢と一本つつ衝突する。しかし、残った数本の矢がリーグに襲ってくる。

リーグ「ふん」

余裕な表情で光の矢が激突する寸前にリーグの姿が消えた

ビート「消えた？」

リーグ「ここだぞ!？」

ビートの背後にいた

リーグ「私は瞬間移動も出来るのだよ。」

ビート「くっ!」

ビートは一撃を見舞うも瞬間移動で避けられる。

リーグ「わかったであろう。」

私の瞬間移動はこういう風に回避可能なのだ。」

剣を思いつきりビートに叩きつける

ビート「いやああ!!」

ビートも弾き飛ばされてしまう

ミューズ「ビート!許さない!

どんな邪悪な心でも女神の調で包んでみせる!!」

リーグ「お前ごときに何ができるといふのだ?」

ミューズ「おいで、シリー!」

シリー「シシー」

ミューズ「シの音符のシャイニングメロディ!」

4人のミューズの幻影と共にリーグを取り囲みサークルを描く。

リーグ「何だ!?!これは?」

ミューズ「プリキュア・シャイニングサークル!!」

リーグ「ぐう、体が動かぬ。」

リーグはミューズのサークルの力によって動けなくなる。

リーグ「これでは瞬間移動で回避は出来ないな。

だが、我を甘く見ないでもらいたいものだな。

むん!!」

自身のわずかな力で少し鈍らせた。

ミューズ「そんな、私の技を少し鈍らせた?」

リーグ「こんな子供騙しな技で私を倒せると思うでないぞ。」

リーグはわずかに動ける体で周りに円を剣で描きそこから強力な斬撃を放つ

リーグ「はっ!!」

ミューズ「きゃああ!!」

その斬撃によってミューズの技は破かれ4人の幻影は消滅する。そしてミューズを吹き飛ばされる。

4人「うう・・・」

4人はかなりの痛手を負ったようである。

リーグ「どうした?来ないのか?」

メロディ「くっ、あいつの斬撃なんで強力なの?」

ビート「私達がここまでダメージを負うなんて」

リーグ「当然だ、私の剣は空間を斬る剣。強いのは当然。さあかかってこなければ止めだ。」

ハミィ「プリキュア!

立ってニャ!立つんだニャ!!」

ハミィが駆けつけてくる

リズム「ハミィ・・・」

ハミィ「プリキュアがこんな程度へばってちゃダメだニャ。頑張つてニャ!!」

ビート「ハミィのおかげで元気が出てきた。」

ミューズ「うん、私たちプリキュアはどんな時でも、」

メロディ「あきらめない!!」

ハミィの応援で元気を取り戻し立ち上がるメロディ達

リーグ「ふん、くだらぬ！」

メロディ「何ですって!？」

リーグ「私は絆だの信じあう心だのそういう物は大嫌いだ。

お前達プリキュアもそんなくだらない物のかまけているようだな。」

リズム「どうしてあなたはそんなことを言えるの？」

リーグ「分からねのか？」

人の絆は脆い物だ。すぐに崩れ去ってしまうほどにな。」

ビート「そんなことはない。

確かにあなたの言うとおり絆は何かのきっかけであっけなく崩れてしまう。

でも、絆はまた取り戻すこともできる。何でも。」

リーグ「また取り戻すだと？」

笑わせるな！結局はまた崩れてしまうだけの繰り返しではないか。

ならばそんな物なければよい！

それが分からねば、この私がふち壊してやらねばなるまい!!」

プリキュア達の言う事を全く聞き入れないリーグは瞬間移動でプリ

キュアの近くに回りこむ。

ミューズ「いつの間に!？」

リーグ「はっ!!」

剣を地面の突き刺し地面から強力な衝撃波が放出される

4人「きゃああ」

その衝撃波に巻き込まれる4人。

ハミィ「みんな」

ニヤッ!」

ハミィの前に立ちふさがるリーグ

リーグ「ふん、まずはお前からだ」

ハミィ「ニヤニヤ」!」

ハミィを始末しようとするリーグ

ビート「ハミイ!!」

メロディ「やめてー!

ハミイに手を出さないで!!」

リーグ「黙っている!

次はお前達だ。」

ハミイ「ハニャー!!」

リーグ「これで終わりだ!!」

ハミイに剣を振りかざそうとしたその瞬間

隼人「うりゃあ」

間一髪のところではミイを抱え救出した

リーグ「!」

隼人「大丈夫か?」

ハミイ「ありがとニャッ!」

隼人「やっぱりお前は喋る猫だったのか。

安心しろ、後は俺たちが」

ハミイを安全なところに避難させ瞬とともにリーグの前に出る

リーグ「何だ、お前たちは?

我の邪魔をするのであれば容赦しないぞ!」?

リズム「逃げてください!早く!」

二人に逃げるように説得するリズム

瞬「大丈夫だ。

僕たちに任せてくれ。」

隼人「ああ」

瞬・隼人「スイッチ・オーバー!」

一般人だった二人の姿が白衣の姿に変わった

ウエスター「我が名はウエスター」

サウラー「我が名はサウラー」

メロディ「一体、何なの?あの二人?」

サウラー「我らはラビリスに生まれし者」

ミューズ「ラビリンス？」

ウエスター「もうこれ以上貴様のすきにはさせん！」

リーグ「邪魔者は消すだけだ」

次回へ続く

スイート VS リーグ その3

突如現れたリーグと名乗る敵、その桁違いの力に為すすべもなく倒れるスイートプリキュア。

そんな彼女たちを助けるかのように現れたラビリンスのウエスター、サウラーがリーグの前に立ち塞がる。

リーグ「そこをどいてもらおうか？」

サウラー「その前に、さっき彼女達ではなくその子猫を狙った？
何故だ！」

先ほど、ハミイを始末しようとした事を咎めるかのように問い詰める。

リーグ「知れたこと。」

私は絆など友情といった物が嫌いだからだ。

それ故、私はそれを破壊することを生き甲斐としているのだ。」

ウエスター「何だと！そんな事でこの喋る猫を狙ったというのか？」

リーグ「だとしたらどうする？」

サウラー「何てやつだ。」

ウエスター「何故貴様には分かんのだ？」

絆や友情、人としての心が！」

リーグ「人としての心？何とでもいうがよい。

お前達もプリキュアたちもろとも消し去ってくれる！」

リーグは二人に襲いかかるうとする

サウラー「来るぞ！」

リーグ「はっ！！！」

剣から斬撃を飛ばす

ビート「危ない！」

ウエスター・サウラー「はああ!!」

二人は互いの片手を出し合いバリアを展開する。
そしてバリアで受け止めた斬撃を跳ね返す。

リーグ「何?」

すかさず瞬間移動で避けるリーグ

ウエスター「どこへ行きやがった?」

リーグはサウラーの後ろに回りこんだ

サウラー「!!」

サウラーはすぐに感づき回し蹴りのカウンターを見舞わせそれを
剣で受け止めるリーグ

リーグ「ぐうっ」

サウラー「くっ」

そこからリーグの腹に強力な掌底を喰らわす

サウラー「はっ」

リーグ「ぐは!!」

いきなりの攻撃にふらつくリーグに横からウエスターのパンチが
横腹に炸裂する。

ウエスター「おりゃあ!!」

リーグ「ぬおおお!!」

そのまま吹き飛ばされ壁に激突するリーグ。

しかしその直後、瞬間移動でウエスターの目の前に現れ剣を振りか
ざす。

ウエスター「しまった!!」

リーグ「もう遅い!!」

ウエスターに迫る剣を間一髪でサウラーが拳で弾く

リーグ「おのれ!!」

そこからウエスター、サウラーの力を合わせたパンチが炸裂する。
リーグ「うおおお!!」

また吹き飛ばされる

メロディ「すごい強い！」

リズム「あの二人の息も合ってるわ」

二人の戦い方に歓心しているメロディとリズム

ビート「私たちものんびりと寝てられないわ」

ミュージズ「そうね」

前のダメージを背負いながらも立ち上がるプリキュア。

リーグ「うっ」

ふらつきながらも立ち上がるリーグ。

ウエスター「まだ立てるか」

リーグ「油断していた。」

まさかこの私とやり合えるほど強者がいたとはな

メロディ「待ちなさい！」

サウラー「お前達、大丈夫なのか？」

ミュージズ「大丈夫、私たちならまだ戦える！」

ウエスター「たいしたもんだな、お前達。」

それこそ俺たちの知っているプリキュアだ。」

ビート「どうしてあなたたちがプリキュアを？」

リーグ「何故だ。なぜ立ち上がれる？」

お前達のダメージはとうに限界を超えていたはず。

なのに何故？」

リズム「あなたには分からないのよ！

私たちの本当の力、本当の想いが」

リーグ「力、想いだと」

ビート「私たちプリキュアはどんなときでもあきらめない。」

メロディ「人々の笑顔、幸せ、友情を守るまでは絶対に負けるわけ

にはいかないの！

それこそがプリキュアの絆なのよ！」

リーグ「ふん、それがくだらぬというのがまだわからぬか？」

まあよい、どのみち貴様らは全員地獄へ行くことになるのだからな
！」

メロディ「人としての心がないあなたに見せてあげる、私たちの絆
の力を。」

みんな行くよ！！」

4人「出でよ、全ての音の源よ！」

メロディ「届けましょう、」

4人「希望のシンフォニー！」

4人「プリキュア・スイートセッション・アンサンブル・クレッシ
ェンド！」

ヒーリングチェストから召還したクレッシェンドトーンと一体化
して金色の光の炎となりリーグに突撃する。

ウエスター・サウラー「行けー！！」

リーグ「くっ、（なんとという強大な力だ）。

く、来るな！」

斬撃を彼女たちがめがけ数発飛ばすが強力な力ゆえに通用しない

リーグ「何だと、通用しない？」

4人「受けてみなさい、私たちの絆の力を！」

リーグ「おのれ、こんなところでくたばるわけにはゆかぬ！」

4人の合体技が炸裂する前に瞬間移動で姿を消す
クレッシェンドトーン「消えた！」

後一步のところで逃げられやむなく合体技を中止した。

リーグはメロディ達の少し離れたところの空中に逃げていた。

リーグ「はあはあ、おのれプリキュアども。」

しかし、奴ら強さはとんでもない。もしかすると我々の目的の邪魔になり得るやもしれぬ。

このことはギア様に報告しなくては」

瞬間移動でまた姿を消す

メロディ「そんな、逃げられちゃうなんて」

ビート「後一歩だったのに」

ハミィ「でも、ハミィはみんなが無事でよかったニヤ！」

能天気なハミィは4人が無事だったことに喜ぶ。

ビート「もう、ハミィったら人の気も知らないで」

ミュージズ「でも、あのリーグは何者だったの？」

リズム「さあね、よく分からないことだらけだけど

あなたたちに聞きたいことは山ほどあるわ。」

リズムはウエスター・サウラーに目をむける

ウエスター・サウラー「あっ！」

リズム「ハミィを助けてくれたこと私たちのために戦ってくれたことは感謝するけど

あなたたちは何者なの？何でプリキュアを知っているのかここへ来た理由、じっくりと聞かせてもらおうよ。」

メロディ「まあまあ、そんなに問い詰めなくても」

サウラー「そうだね、君たちに教えないとね。」

ウエスター「俺たちがここへ来た目的を」

次回へ続く

スイート VS リーグ その3 (後書き)

次の話の内容はフレッシュプリキュアです。

フレッシュ VS ハンク その1

キュアメロディ達は謎の敵リーグと戦っていたのだが、実は同時刻に桃園ラブことキュアピーチたちの住処であるクローバータウンストリートでも謎の敵の襲撃を受けていたのだった。

ラブ「あゝ、カオルちゃんのドーナツおいしかったよ」

美希「いつも食べてるでしょ？ドーナツは」

祈里「もしかして、せつなちゃんとは久しぶりに一緒だから？」

ラブ「大正解〜！」

実はせつなはラビリンスからラブ達の世界に来ており、

ラブ達と久々に再開してお出掛けをしている途中なのである。

せつな「もう、ラブったらはしやぎすぎなんだから。」

でもあなた達と会うのはあのブラックホールの事件以来ね。」

タルト「そうや、あん時はピーチはんたちとは

もう二度と会えんようになってまうかと思ったで。」

シフォン「プリップ」

美希「確かに、いつどんな悪が

現れるか分からないしね。」

ラブ「まあ、どんな敵が現れてもあたしたちが倒しちゃえばいいんだよ〜！」

自信満々と張り切るラブ。

祈里「もう、そんな縁起でもないこと言って。

もし本当に来たらどうするの？」

せつな「あれ、あの何してるのかしら？」

あたりを見渡しているおばあさんを気にするせつな。

美希「見かけない人ね。道に迷ったんじゃない？」

ラブ「聞いてみよう〜！」

ラブは即座におばあさんに話しかける

祈里「あっ、ラブちゃん！」

美希「ラブって困っている人を見るとほっとけないタイプだからね。」

ラブ「おばあさん！」

おばあさん「うん？」

ラブ「道に迷ったんですか？」

おばあさん「ええ、私はよその街から来てこの街に来るのは初めてなの。」

せつな「どこへ行きたいんですか？」

おばあさん「お花屋さん」

ラブ「じゃあ、あたしたちが案内してあげますよ。」

ついて来てください。」

効果音「ズドーン」

祈里「何？」

せつな「あそこで何かあったみたいよ」

ラブ「おばあさん、ちょっと悪いんですけどここで待っていてください。」

後で案内しますから！」

美希「みんな行くわよ！」

全員大きな音がしたところへ向かって走っていく。

おばあさん「もしかしてあの子たちは」

美希「何、あれ？」

人の姿をした闇の怪物が2体暴れまわっていた

人（男）「うわー」

人(女)「きゃー」
ラブ「みんな、変身だよ！」

4人「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

キュアピーチ「ピンクのハートは愛あるしるし！もぎたてフレッシュ、キュアピーチ！」

キュアベリー「ブルーのハートは希望のしるし！つみたてフレッシュ、キュアベリー！」

キュアパイン「イエローハートは祈りのしるし！とれたてフレッシュ、キュアパイン！」

キュアパッション「真っ赤なハートは幸せの証！熟れたてフレッシュ、キュアパッション！」

ピーチ「レッツ、」

4人「プリキュア！」

パッション「一体何なの？」

この怪物は？」

？「おい、お譲ちゃんたちよ！」

4人「誰！？」

ハンク「わしゃギア様によって生み出されたハンクってんだ。以後よろしくな」

ハンクと名乗る初老の姿をした怪力男が4人の前に現れる。

ピーチ「ギア？」

この騒ぎはあなたの仕業なの？」

ハンク「そうだとも。」

さあ、分かったら怪我しねえうちにさっさと帰んな
ベリー「何ですって？」

パッション「誰が恐怖で苦しむ人々を放っておいて帰るものですか！」

ハンク「ふむ、面白い！」

ならばこのわしがおめえらの相手をしてやろう」

闇の怪物2体がハンクの体に入り込み体が一回り大きくなる。

パイン「一体、何なの？」

ピーチ「なんだかよくわかんないけど、行くよ！」

ピーチとパッションがハンクの真正面に行き、パンチを連続を繰り出す。

ピーチ&パッション「はああ!!！」

ハンクは余裕な表情で二人のパンチを受け止め続ける。

ハンク「ほう、なかなかのパワーだな。

なかなか戦い慣れてる。」

ピーチ&パッション「余計なお世話よ！」

二人はハンクの顔面に強烈なパンチを浴びせる

ハンク「だが、その程度ではこのわしは倒せねえぜ。」

ピーチ「そんな、効いてない!？」

ハンク「ぬおお!!！」

ハンクはピーチに反撃のパンチを与える。

ピーチ「うあー!!！」

ピーチは激しく飛ばされる。

パッション「ピーチ!!！」

ハンク「余所見をするとは随分と余裕じゃねえか」

パッションにもアツパーカットを見舞う

パッション「きゃああ!!！」

空中に吹き飛ばされ、地面に落下する

ベリー「はあー！」

パイン「やあー！」

ベリーとパインが左右に攻撃を仕掛けるがハンクはそれを受け止める。

ハンク「ふっ」

ベリー&パイン「うっ！」

受け止められながらも力を加えるがハンクは二人をそのまま投げ飛ばす。

ハンク「！」

しかし二人は体勢を立て直し

ベリー&パイン「ダブル・プリキュア・キックー！」

ハンク「ぐっ！」

とっさに両腕のカードで防ぎながらよろける。

ベリー「効いた？」

ハンク「効くわけねえだろー！！」

ベリーに対し反撃として猛スピードの突進を喰らわす。

ベリー「うああー！！」

ベリーは思いっきり吹っ飛ば

パイン「ベリーー！」

あの体格で、なんてスピードなの。」

ハンクのスピードに驚くパインにも猛スピードのタックルを与える。

ハンク「せりやあー！」

パイン「いやああー！！」

パインも吹き飛ばされる

ハンクの驚異のパワーの前に平伏されるピーチ達。

ピーチ「あいつ、強すぎる。」

パッション「あの強さ尋常じゃないわ」

ハンク「何だ、もう終わりかい？
じゃあ、止めといくか。」

止めを刺そうとするハンク
？「お待ちなさい！」

聖なる光に輝くプリキュアと思われる人物がいた。

ハンク「何だあ？」

ベリー「まさかプリキュアなの？」

パイン「でも、誰なの？」

？「私は・・・」

聖なる光に輝く一輪の花 キュアフラワー！！」

次回へ続く！

フレッシュ VS ハンク その2

欠々にせつなと一緒にクローバータウンストリートでお出掛けをしているラブ達だが、その最中に現れた謎の敵ハンク。プリキュアとなりそのハンクに立ち向かうが強力な強さに圧倒されてしまう。その時、現れたプリキュア キュアフラワーが彼女たちを助けるべく現れたのだった。

ハンク「ほう、プリキュアはまだいたのか。

お前も倒してやるぜ！」

真っ向からキュアフラワーに突撃し拳を叩き込む

ハンク「せりゃああー!!」

キュアフラワー「はっ!!」

フラワーは球状のバリアを全身に張りハンクの正拳を防ぐ

ハンク「何？」

フラワー「プリキュア・フラワーカーニバル!!」

4枚の花冠がハンクの周りを取り囲み、花冠から分身が現れ攻撃をする。

そしてフラワーの分身たちがハンクの体内に入り込み、先ほど取り込んだ闇の怪物に猛攻を与える。

ハンク「うおおお!! やめろー!!!」

フラワーの攻撃に息をあげながら膝をつく。その直後、ハンクの体が元のサイズに戻る。

ピーチ「元に戻った!？」

ハンク「くそう、わしの体に取り込ませた闇の怪物が倒されたせいで元に戻りやがった!

ためえだけは許さん! 許さねえぞ!」

元に戻った体でフラワーに襲いかかるハンク。
だが、その直後

ハンク「ぐああああ!!」

バラの花びらが吹雪がハンクを包み込み連続の猛攻を受ける。
パッション「何あの人？」

ベリー「あの人イケメンね。」

ハンクに猛攻を与えたのはメガネをかけたイケメンの青年だった。
フラワー「ありがとう、コッペ。」

もう私たちができるのはここまで。さあ、早く決めなさい!」
パイン「ありがとうございます」

さっきまでやられていたプリキュアたちは立ち上がる。

ピーチ「ハンク!人々を苦しめて、あんただけは絶対に許さないんだから!!」

ハンク「くっ」

ピーチ「届け!愛のメロディ!

キュアステック「ピーチロッド!」

ベリー「響け!希望のリズム!

キュアステック「ベリーソード!」

パイン「癒せ!祈りのハーモニー!

キュアステック「パインフルート!」

パッション「歌え!幸せのラプソディ!パッションハーブ」

ピーチ・ベリー・パイン「悪いの悪いの飛んでいけ!!」

ピーチ「プリキュア・ラブサンシャイン!」

ベリー「プリキュア・エスポワールシャワー!」

パイン「プリキュア・ヒーリングプレアール!」

ピーチ・ベリー・パイン「フレッシュユール!」

パッション「吹き荒れよ！幸せの嵐！
プリキュア・パピネス・ハリケーン！！」

彼女達4人の必殺技がハンクに襲いかかるうとしていいる。
ハンク「来るか、ならば受けてやる！！」

4人「行けー！ー！！！」

4人の必殺技が見事ハンクに命中した

4人「はあああああ！！！」

ハンク「ぐおおおおお！！！」

パイン「やったの？」

ピーチ「見事に決まったんだからたぶん・・・」

パッション「いや、まだよ！」

ボロボロになりながらも余裕の表情で立っているハンク。

ハンク「ふん」

ベリー「そんな、あたしたちの攻撃を受けてまだ立っていられるなんて！！」

ハンク「わしはこの程度じゃまだまだくたばらねえのさ。
ぐっ！

だがよ、少しは効いたようだぜ。」

ピーチ「みんな、また行くよ！」

ピーチはまたハンクに戦いを挑もうとする

ハンク「勝負はお預けだ！

今度は必ず勝つてやる！！」

深手を負いながら撤退したいくハンク

ピーチ「行っちゃった」

タルト「ピーチはん達！！」

タルトとシフォンがやってくる

ベリー「タルト、シフォン！」

タルト「あんさんら、無事なんか。

よかったで。」

パイン「でも、あのハンクっていう敵は何だったの？」

パッション「よくはわからないわ。

とにかく、あのキュアフラワーという人には感謝しないとね。」

4人「ありがとうございます！」

タルト「あんさんには礼を言うで。

けど、なんであんさんもプリキュアやねん？」

フラワー「とにかく、元の姿に戻るわね。」

フラワーは変身を解き人間の姿に戻る。

その姿は先ほどのおばあさんだった

ピーチ「ああ、あなたはさっきのおばあさん？」

薫子「そうよ、私は花咲薫子というの」

ベリー「花咲？」

どこかで聞いたような？」

パイン「あっ！

もしかしてつぼみちゃんじゃないの？」

薫子「そう私はつぼみの祖母よ」

パッション「でも、どうしておばあさんがプリキュアを？」

フラワー「実は私は50年前からプリキュアをやってたの。」

全員「ええ〜〜〜」

次回へ続く！

フレッシュ VS ハンク その2 (後書き)

今回はハートキャッチです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9887y/>

スイートプリキュア 闇に蠢く次元の悪

2011年12月23日02時46分発行